

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
9:00	<b>A101</b> ○村田 未果 <sup>1</sup> ・飯田 博之 <sup>1</sup> ・秋月 岳 <sup>2</sup> (農研機構 野花研 <sup>2</sup> ・農研機構 九沖農研) 市販人工飼料を用いたツマジロクサオウの効率的な飼育法 <sup>1</sup>					
9:15	<b>A102</b> ○秋月 岳 <sup>1</sup> ・藤井 智久 <sup>1</sup> ・真田 幸代 <sup>1</sup> ・村田 未果 <sup>2</sup> (農研機構九州沖縄農業研究センター <sup>2</sup> ・農研機構野菜花き研究部門) 市販人工飼料を用いたツマジロクサオウの効率的な飼育法 <sup>2</sup>		<b>C102</b> ○長 泰行 <sup>1</sup> (千葉大学・園芸学研究所) 卵捕食者によって誘導されるミヤコカブリダニの托卵			<b>F102</b> ○比嘉 真太 <sup>1</sup> ・松山 隆志 <sup>1</sup> (沖縄農研セ) X線照射がウリミバエの妊性、生存率及び雄の交尾競争力に及ぼす影響
9:30	<b>A103</b> ○米津 聡浩 <sup>1</sup> ・下村 文那 <sup>1</sup> ・田村 悠 <sup>2</sup> ・中石 一英 <sup>1</sup> (高知農技セ <sup>2</sup> ・高知県農業担い手支援課) 施設ビームのアザミウマ類に対するプロヒドロジャスモン処理の防除効果	<b>B103</b> ○松谷 広志 <sup>1</sup> ・加藤 良晃 <sup>2</sup> ・田中 利治 <sup>3</sup> ・中松 豊 <sup>4</sup> (鳥羽市立加茂小 <sup>2</sup> ・BASF <sup>3</sup> ・名大・農国セ <sup>4</sup> ・皇學館大・教育) アフヨウ体腔中の循環血球であるhyper-spread cellの維持と供給源について	<b>C103</b> ○堀江 友哉 <sup>1</sup> ・矢野 修一 <sup>1</sup> (京大院・農・生態情報) セクハラをめぐるナミハダニ雌雄の攻防が空間分布を広げる	<b>D103</b> ○小西 麻結 <sup>1</sup> ・秋野 順治 <sup>1</sup> ・矢野 修一 <sup>2</sup> (京工繊大院・応生 <sup>2</sup> ・京大院・農・生態情報) 痕跡成分感知で未然に回避:カンザワハダニのアリ対策の仕組み	<b>E103</b> ○萬屋 宏 <sup>1</sup> ・加嶋 崇之 <sup>2</sup> ・須藤 正彬 <sup>1</sup> ・佐藤 安志 <sup>1</sup> (農研機構 果樹茶業研究部門 <sup>2</sup> ・石原産業株式会社) 圃場におけるアセチル化グリセリドのチャノミドリヒメコバエに対する防除効果の検証一特に希釈倍率と秋芽時期の検証	<b>F103</b> ○光永 貴之 <sup>1</sup> ・村上 理都子 <sup>1</sup> ・有本 誠 <sup>1</sup> ・長坂 幸吉 <sup>1</sup> (農研機構中央農業研究センター) ニホンアブラバチによる施設ナスのワタアブラムシ防除
9:45	<b>A104</b> ○安達 修平 <sup>1</sup> ・富高 保弘 <sup>1</sup> ・櫻井 民人 <sup>2</sup> (農研機構・九沖農研 <sup>2</sup> ・農研機構・中央農研) キュウリ苗へのプロヒドロジャスモン処理によるアザミウマ <sup>2</sup> 種の定着抑制効果	<b>B104</b> ○奥村 雄輝 <sup>1</sup> ・澤 友美 <sup>2</sup> ・田中 利治 <sup>3</sup> ・中松 豊 <sup>2</sup> (鳥羽市立加茂小 <sup>2</sup> ・皇學館大・教育 <sup>3</sup> ・名大・農国セ <sup>4</sup> ) カリヤコマユバチの漿膜由来のテラトサイトとextraembryonic membranesによる寄主の免疫抑制および関係遺伝子の発現について	<b>C104</b> ○白井 正樹 <sup>1</sup> (電力中央研究所・環境科学研究所) ヒトの接近に対するハシボソガラスの生理的反応	<b>D104</b> ○長澤 淳彦 <sup>1</sup> ・加藤 大也 <sup>1</sup> ・門澤 智広 <sup>1</sup> ・松田 一寛 <sup>1</sup> ・堀 雅敏 <sup>1</sup> (東北大院・農) ホオズキ葉のオオニジュウヤホシテントウに対する摂食阻害効果	<b>E104</b> ○斉藤 千温 <sup>1</sup> ・土井 誠 <sup>1</sup> ・吉崎 涼花 <sup>1</sup> (静岡県農林技術研究所) タバコカスミカメによるトマト果実への吸汁とトマト果実の色の関係	<b>F104</b> ○山口 貴大 <sup>1</sup> (奈良県農研セ) イチゴにおけるワタアブラムシの簡易密度推定法の開発
10:00	<b>A105</b> ○櫻井 民人 <sup>1</sup> ・安部 洋 <sup>2</sup> ・大矢 武志 <sup>3</sup> ・大西 純 <sup>1</sup> ・村上 理都子 <sup>1</sup> (農研機構・中央農業研究センター <sup>2</sup> ・理化学研究所バイオリソース研究センター <sup>3</sup> ・神奈川県農業技術センター) タバコカスミカメの定着に対する制虫剤プロヒドロジャスモンの影響	<b>B105</b> 吉永 侑生 <sup>1,2</sup> ・東 政明 <sup>2</sup> ・小林 淳 <sup>1</sup> (山口大院・創成科学 <sup>2</sup> ・鳥取大院・連合農学) カイコ幼虫消化管幹細胞の初代培養とトランスクリプトーム解析	<b>C105</b> ○中野 亮 <sup>1</sup> (農研機構果茶研) ヤガ類のコウモリ回避行動と飛翔特性	<b>D105</b> ○千葉 勇輝 <sup>1</sup> ・堀 雅敏 <sup>1</sup> (東北大院・農) 体表ワックスの性的二型がイチゴハムシの雄の交尾行動に与える影響	<b>E105</b> ○上村 香菜子 <sup>1</sup> ・伊丹 春衣 <sup>1</sup> ・平田 祐子 <sup>2</sup> ・久松 美咲 <sup>3</sup> ・野田 遥 <sup>4</sup> (福岡農林試 <sup>2</sup> ・南筑後普指セ <sup>3</sup> ・北筑前普指セ <sup>4</sup> ・久留米普指セ) 福岡県の促成トマトにおけるタバコカスミカメ利用体系の検討	<b>F105</b> ○中井 善太 <sup>1</sup> ・清水 健 <sup>2</sup> ・大井田 寛 <sup>3</sup> ・園田 昌司 <sup>4</sup> (東京農工大連合農学研究科 <sup>2</sup> ・千葉農林総合研究センター <sup>3</sup> ・法政大学生命科学部 <sup>4</sup> ・宇都宮大・農学部) キイカブリダニの卵孵化に対する植物や変動湿度の影響
10:15	<b>A106</b> ○高梨 琢磨 <sup>1</sup> ・衣浦 晴生 <sup>1</sup> ・上地 奈美 <sup>2</sup> ・西野 浩史 <sup>3</sup> ・浦野 忠久 <sup>1</sup> ・加賀谷 悦子 <sup>1</sup> ・田村 繁明 <sup>1</sup> ・薩山 健介 <sup>4</sup> (森林総研 <sup>1</sup> ・農研機構果茶研 <sup>2</sup> ・北海道大 <sup>3</sup> ・埼玉大) 振動によるクビアカツヤカミキリの行動制御機構一成虫・幼虫の室内試験	<b>B106</b> ○大門 高明 <sup>1</sup> ・Koyama Takashi <sup>2</sup> ・Mirth Christen <sup>3</sup> (京都大学大学院農学研究科 <sup>2</sup> ・Univ. of Copenhagen <sup>3</sup> ・Monash Univ.) カイコの眠性決定機構の解明	<b>C106</b> ○伊藤 和也 <sup>1,2</sup> ・矢野 修一 <sup>3,2</sup> (京大 <sup>2</sup> ・農 <sup>3</sup> ・京大院) コナガとアリの攻防	<b>D106</b> ○宇賀神 篤 <sup>1</sup> ・尾崎 克久 <sup>1</sup> (JT生命誌研究館) ナミアゲハの前肢に発現する味覚関連遺伝子群の局在パターン	<b>E106</b> ○上里 卓己 <sup>1</sup> ・秋田 愛子 <sup>1</sup> (沖縄県農業研究センター) オクラほ場周辺に天敵温存植物を植栽することによるフタテンミドリヒメコバエ <i>Amrasca biguttula</i> (Ishida) の発生に与える影響	<b>F106</b> ○角 菜津子 <sup>1</sup> ・澤村 信生 <sup>1</sup> (島根県農業技術センター) 施設フドウ棚上へのミスト設置がカブリダニ類へ及ぼす影響について
10:30	<b>A107</b> ○衣浦 晴生 <sup>1</sup> ・高梨 琢磨 <sup>1</sup> ・小野寺 隆一 <sup>2</sup> ・田山 巖 <sup>2</sup> ・金子 修治 <sup>3</sup> ・山本 優一 <sup>3</sup> (国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 <sup>2</sup> ・東北特殊鋼株式会社 <sup>3</sup> ・地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所) 振動によるクビアカツヤカミキリの行動制御に基づく防除一野外幼虫試験	<b>B107</b> ○粥川 琢巳 <sup>1</sup> ・古田 賢次郎 <sup>1</sup> ・米須 清明 <sup>2</sup> ・岡部 隆義 <sup>2</sup> (農研機構・生物機能 <sup>2</sup> ・東大・創薬機構) 培養細胞系を用いた大規模スクリーニングから得られた新規幼若ホルモンアゴニスト	<b>C107</b> ○伊藤 裕香 <sup>1</sup> ・北條 賢 <sup>1</sup> (関西学院大学・院・理工) アリは聖徳太子になれるのか? 道しるべフェロモン追従がアリの記憶形成に与える影響	<b>D107</b> ○西田 律夫 <sup>1</sup> ・河野 伸二 <sup>2</sup> ・比嘉 真太 <sup>2</sup> ・親富祖 明 <sup>2</sup> ・松山 隆志 <sup>2</sup> ・大野 慧 <sup>3</sup> ・小野 肇 <sup>3</sup> (1. 京都市, 2. 沖縄県農研センター, 3. 京大院農) ナスミバエの雄直腸フェロモン腺に含まれる雌誘引成分の探索	<b>E107</b> ○吉田 達也 <sup>1</sup> ・内山 徹 <sup>1</sup> (静岡茶研センター) 茶園におけるカブリダニ個体数の季節変動	<b>F107</b> ○矢野 栄二 <sup>1</sup> (京都大学生態学研究センター) タバコカスミカメの地中海系統と我が国の系統の生物防除資材としての比較
10:45	<b>A108</b> ○弘岡 拓人 <sup>1</sup> ・増田 吉彦 <sup>1</sup> (和歌山果樹試かき・もも研) クビアカツヤカミキリの接ぎ木テープを利用した産卵誘発法と各種薬剤の防除効果	<b>B108</b> ○董 笠 <sup>1</sup> ・沼田 英治 <sup>1</sup> ・伊藤 千紜 <sup>1</sup> ・村松 伸樹 <sup>1</sup> (京大院・理) ホソヘリカメムシの <i>Krüppel homolog</i> 遺伝子は幼虫形質を維持するはたらきをもつ	<b>C108</b> ○森津 悠貴 <sup>1</sup> ・矢口 甫 <sup>1</sup> ・山口 勝司 <sup>2</sup> ・重信 秀治 <sup>2</sup> ・北條 賢 <sup>1</sup> (関西学院大学 <sup>2</sup> ・基礎生物学研究所) シジミチョウとの共生がアリ脳の遺伝子発現に与える影響	<b>D108</b> ○田端 純 <sup>1</sup> ・手柴 真弓 <sup>2</sup> (農研機構 <sup>2</sup> ・福岡県農総試) 交信攪乱に伴う交尾遅延がフジコナカイガラムシの繁殖に与える影響	<b>E108</b> ○佐藤 安志 <sup>1</sup> ・石島 力 <sup>2</sup> ・須藤 正彬 <sup>1</sup> ・萬屋 宏 <sup>1</sup> (農研機構果茶研 <sup>2</sup> ・金谷 <sup>2</sup> ・農研機構中央農研) クワシロカイガラムシ散水防除のための孵化時期予測	<b>F108</b> ○川田 千瑛 <sup>1</sup> ・佃 晋太郎 <sup>1</sup> ・藤村 耕一 <sup>2</sup> ・津田 遼平 <sup>2</sup> (香川農試 <sup>2</sup> ・中讃普及センター) 香川県施設栽培ミニトマトにおけるタバコカスミカメ利用の検討

## 2021年3月24日(水) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
11:00	<b>A109</b> ○中西 友章 <sup>1</sup> ・中野 昭雄 <sup>1</sup> (徳島県農総技センター) モモの切枝を用いたクビアカツヤカミキリの成虫及び卵に対する薬剤効果試験	<b>B109</b> ○萩原 佳輔 <sup>1</sup> ・木村 将大 <sup>1</sup> ・小山 文隆 <sup>1</sup> ・加藤 学 <sup>2</sup> ・景山 心悟 <sup>2</sup> ・生田 智樹 <sup>2</sup> ・松野 研司 <sup>1</sup> ・大野 修 <sup>1</sup> (工学院大学 先進工 <sup>2</sup> (株)山田養蜂場) キイロスズメバチ由来キチナーゼ阻害物質の単離と機能解析	<b>C109</b> ○前野 浩太郎 <sup>1</sup> (国際農研) サハラ砂漠におけるサバクトビバッタ幼虫の体温調節行動とその意義	<b>D109</b> ○宮本 隆典 <sup>1</sup> ・田端 純 <sup>2</sup> ・戒能 洋一 <sup>1</sup> (筑波大・生命環境 <sup>2</sup> 農研機構) チャノコカクモンハマキの性フェロモン源定位飛翔行動におよぼす複数LEDの点滅パターン	<b>E109</b> ○須藤 正彬 <sup>1</sup> ・佐藤 安志 <sup>1</sup> ・萬屋 宏 <sup>1</sup> (農研機構 茶病害虫U) 僕たちのナガチャコガネ成虫防除技術の開発が上手く行かない理由(わけ)	<b>F109</b> ○大鷲 友多 <sup>1</sup> ・安部 順一郎 <sup>1</sup> (農研機構 西日本農業研究センター) プラインシュリンプ卵を使用した代替餌資材がタバコカスミカメの定着・増殖に与える影響
11:15	<b>A110</b> ○中野 昭雄 <sup>1</sup> ・中西 友章 <sup>1</sup> (徳島農総技セ) フェロモンと糖酢液の併用によるモモ園におけるクビアカツヤカミキリの誘殺推移	<b>B110</b> ○乾 智洋 <sup>1</sup> ・山下 大志 <sup>1</sup> ・大門 高明 <sup>1</sup> (京都大学・農学研究科) 蛹変態の鍵遺伝子 <i>Broad-Complex</i> の翅原基特異的な発現制御機構	<b>C110</b> ○岡田 龍一 <sup>1</sup> ・山崎 理正 <sup>2</sup> ・伊東 康人 <sup>3</sup> (神戸大学大学院理学研究科生物学専攻 <sup>2</sup> ・京都大学農学部 <sup>3</sup> 兵庫県立農林水産技術総合センター) カシノナガキクイムシにおける嗅覚1次中枢の構造と集合フェロモンの情報処理機構	<b>D110</b> ○中 秀司 <sup>1</sup> ・松井 悠樹 <sup>2</sup> ・服部 夏実 <sup>3</sup> ・青木 一幸 <sup>4</sup> ・Miriam F. Cooperband <sup>4</sup> (鳥取大・農 <sup>2</sup> 鳥取大・連農 <sup>3</sup> 鳥取大・院持 <sup>4</sup> USDA-APHIS) タイリクマツカレハ及びオキナワマツカレハの性フェロモン(予報)	<b>E111</b> ○駒形 泰之 <sup>1</sup> ・大江 高穂 <sup>1</sup> ・関根 崇行 <sup>1</sup> (宮城県農業・園芸総合研究所) リンゴ園において繁茂した下草は殺虫剤による地表徘徊性クモ類の個体数減少を緩和する	<b>F110</b> ○中野 亮平 <sup>1,2</sup> ・守田 大樹 <sup>1</sup> ・岡本 雄太 <sup>1</sup> ・藤原 彩夏 <sup>1</sup> ・山中 武彦 <sup>3</sup> ・安達 鉄矢 <sup>4</sup> (宮崎大学・農 <sup>2</sup> 静岡県 <sup>3</sup> 農研機構 <sup>4</sup> 宮崎大学・IT) 3種天敵温存植物およびトマトを餌としたタバコカスミカメの繁殖能力の比較
11:30	<b>A111</b> ○砂村 栄力 <sup>1</sup> ・田村 繁明 <sup>1</sup> ・浦野 忠久 <sup>1</sup> ・加賀谷 悦子 <sup>1</sup> (森林総合研究所) 日本在来アリ類による外来のクビアカツヤカミキリ卵および孵化幼虫の捕食	<b>B111</b> ○宮崎 智史 <sup>1</sup> ・林 良信 <sup>2</sup> ・山口 勝司 <sup>3</sup> ・重信 秀治 <sup>3</sup> (玉川大院・農 <sup>2</sup> 慶應義塾大・法 <sup>3</sup> 基生研・生物機能) 有翅女王と無翅女王を有するカドフシアリを対象としたRAD-seqによるゲノムワイド関連解析	<b>C111</b> ○日室 千尋 <sup>1,2,3</sup> ・池川 雄亮 <sup>1,2,3</sup> ・本間 淳 <sup>1,2,3</sup> (琉球産経(株) <sup>2</sup> 沖縄県病害虫防除技術センター <sup>3</sup> 琉球大学農学部) とても奇妙なイモゾウムシ雌の交尾間隔のクセ	<b>D111</b> ○松井 悠樹 <sup>1</sup> ・龍 美沙紀 <sup>2</sup> ・藤野 あぐり <sup>2</sup> ・三田村 菜 <sup>2</sup> ・青木 一幸 <sup>3</sup> ・中 秀司 <sup>2</sup> (鳥取大学大学院連合農学研究科 <sup>2</sup> 鳥取大学農学部 <sup>3</sup> 日本蝶類学会) 日本産ノメイガ類における“Hybrid type”性フェロモンの普遍性	<b>E111</b> ○城田 安幸 <sup>1</sup> ・佐藤 悠平 <sup>1</sup> ・城田 創 <sup>1</sup> (医果同源りんご機能研) 有機認証を取得したりんご園に於けるアナグマ、ツキノワグマ、テンなどの加害	<b>F111</b> ○世古 智一 <sup>1</sup> (農研機構) タイリクヒメハナカメムシにおいて、歩行活動量に対する人為選抜が生存や繁殖に及ぼす影響の評価

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
15:15	<b>A112</b> ○青木 隆夫 <sup>1</sup> ・中野 元文 <sup>1</sup> ・深津 浩介 <sup>1</sup> ・藤岡 伸祐 <sup>1</sup> (日本農業株式会社) 新規ウンカ防除剤ベンズピリモキサン(オーケストラ <sup>®</sup> )に関する研究(第6報) —ウンカ類に対する基本性能—	<b>B112</b> 齋 佳苗 <sup>1</sup> ・山本 雅信 <sup>1</sup> ・Nourelidin Abuefadi Ghazy <sup>1</sup> ・鈴木 文詞 <sup>1</sup> (東京農工大学・大学院BASE) ナミハダニにおけるカロテノイド類の生合成経路と機能	<b>C112</b> ○佐久間 知佐子 <sup>1,2</sup> ・嘉糠 洋陸 <sup>1,2</sup> (慈恵医大・熱帯医学・慈恵医大・衛生動物学研究セ) 蚊の吸血を正に制御する味覚受容体Gr5の機能解析	<b>D112</b> ○細川 貴弘 <sup>1</sup> ・今西 萌美 <sup>2</sup> (九大・理・九大・システム生命) チャバネアオカメムシの野外集団では共生細菌の置換が進行しているか? : 10年前と現在の比較	<b>E112</b> ○下八川 裕司 <sup>1</sup> ・米津 聡浩 <sup>1</sup> ・山崎 智之 <sup>2</sup> ・梅原 健司 <sup>3</sup> ・広瀬 拓也 <sup>4</sup> ・佐藤 敦彦 <sup>2,5</sup> ・中石 一英 <sup>1</sup> (高知県農業技術センター・高知県須崎農業振興センター・JA土佐くろしお・アリスタライフサイエンス株式会社・高知県農業政策課) カブリダニ類を利用した促成作型施設ミョウガに発生するナミハダニおよびモジロアザミウマの防除	<b>F112</b> 島田 裕子 <sup>1,2</sup> ・上山 拓己 <sup>3</sup> ・田中 裕之 <sup>4</sup> ・豊田 敦 <sup>5</sup> ・伊藤 武彦 <sup>4</sup> ・丹羽 隆介 <sup>1</sup> (筑波大・TARAセ・JST・さがけ・筑波大・生命環境・東工大・生命理工・遺伝研・比較ゲノム解析) ショウジョウバエを宿主とする内部寄生蜂 <i>Asobara japonica</i> のゲノム解析
15:30	<b>A113</b> ○深津 浩介 <sup>1</sup> ・中野 元文 <sup>1</sup> ・青木 隆夫 <sup>1</sup> (日本農業株式会社) 新規ウンカ防除剤ベンズピリモキサン(オーケストラ <sup>®</sup> )に関する研究(第7報) —トビイロウンカに対する処理時期別の茎葉散布効果—	<b>B113</b> ○立石 康介 <sup>1</sup> ・渡邊 崇之 <sup>2</sup> ・西野 浩史 <sup>3</sup> ・水波 誠 <sup>4</sup> ・渡邊 英博 <sup>1</sup> (福岡大・理・地球圏・総研大・先端科学・北海道大・電子研・北海道大・理院) フモンゴキブリの嗅覚共受容体(Orco)の同定と機能解析	<b>C113</b> ○宮崎 洋祐 <sup>1</sup> ・黒木 出 <sup>2</sup> ・田中 一裕 <sup>3</sup> ・渡 康彦 <sup>2</sup> (戸屋大・経営教育・戸屋大・臨床教育・宮城学院女子大・一般教育) 「湿度(しつど)」の変化に回答して現れるタマネギバエの概日羽化リズム	<b>D113</b> ○高野 俊一郎 <sup>1</sup> ・後藤 恭宏 <sup>2</sup> ・林 哲也 <sup>2</sup> (九大院(農)・九大院(医)) “ <i>Candidatus</i> Mesenet longicola”-キムネクロナガハムシに感染し細胞質不適合(CI)を引き起こす新規細菌	<b>E113</b> ○有本 誠 <sup>1</sup> ・日本 典秀 <sup>1,3</sup> ・長坂 幸吉 <sup>1</sup> ・小俣 良介 <sup>2,4</sup> ・岩瀬 亮三郎 <sup>2</sup> (農研機構 中央農研・埼玉農技研・現在:京大院農・現在:埼玉茶研) 野外に設置した黄色粘着板上のネギネクロバネキノコバエ成虫の放置期間と種特異的ブライマーを用いたPCR成功率との関係	<b>F113</b> ○保原 佳明 <sup>1</sup> ・塚田 森生 <sup>1</sup> (三重大学) アワダチソウゲンバエの卵寄生蜂 <i>Anagrus virginiae</i> の産卵特性
15:45	<b>A114</b> ○松原 成隆 <sup>1</sup> ・島内 円夏 <sup>1</sup> ・大林 崇 <sup>1</sup> ・福澤 麻衣 <sup>1</sup> ・野村 路一 <sup>1</sup> ・直井 敦子 <sup>1</sup> (三井化学アグロ(株)) 新規殺虫剤プロフレア <sup>®</sup> SCの葉菜類主要チョウ目害虫に対する実用性	<b>B114</b> ○松山 涼 <sup>1</sup> ・大出 高弘 <sup>2</sup> (京都大学・農学部・京都大学・大学院農学研究科) フタホシオオロギの触角場形成に関与するホメオボックス遺伝子の発見	<b>C114</b> ○網野 海 <sup>1</sup> ・松尾 隆嗣 <sup>1</sup> (東京大学大学院・農学生命科学研究科) テナガショウジョウバエにおいて闘争経験が次の闘争にもたらす効果の検証	<b>D114</b> ○大手 学 <sup>1,2</sup> ・嘉糠 洋陸 <sup>1,2</sup> (慈恵医大・熱帯医学・慈恵医大・衛生動物セ) ポルバキアによるデングウイルスRNAの制御	<b>E114</b> ○城塚 可奈子 <sup>1</sup> ・金子 修治 <sup>1</sup> ・柴尾 学 <sup>1</sup> (地独)大阪府立環境農林水産総合研究所) 施設抑制キュウリ(抑制栽培)における赤色LED光照射および赤色防虫ネットの展開によるミナミキョロアザミウマの防除効果	<b>F114</b> ○西 大海 <sup>1</sup> ・松岡 拓 <sup>1</sup> ・青木 智佐 <sup>1</sup> (九大院農・九大院生資源) 昆虫寄生菌のミカンキョロアザミウマに対する病原性と土壌混合による影響
16:00	<b>A115</b> ○島内 円夏 <sup>1</sup> ・松原 成隆 <sup>1</sup> ・大林 崇 <sup>1</sup> ・福澤 麻衣 <sup>1</sup> ・野村 路一 <sup>1</sup> ・直井 敦子 <sup>1</sup> (三井化学アグロ(株)) 新規殺虫剤プロフレア <sup>®</sup> SCのキシジミハムシに対する実用性	<b>B115</b> ○大出 高弘 <sup>1</sup> ・大門 高明 <sup>1</sup> (京大・院農) hyPBaseを用いた高効率での遺伝子組換えコオロギの作出	<b>C115</b> ○上原 拓也 <sup>1</sup> ・霜田 政美 <sup>1</sup> (農研機構・生物研) タバコカスミカメのゲノム育種に向けたトランスクリプトーム解析	<b>D115</b> ○陰山 大輔 <sup>1</sup> ・春本 敏之 <sup>2</sup> ・藤原 亜希子 <sup>3</sup> ・長峯 啓佑 <sup>1</sup> ・杉本 貴史 <sup>1</sup> ・上樂 明也 <sup>1</sup> ・和多田 正義 <sup>3</sup> (農研機構・生物機能・京大・白眉センター・愛媛大・理学部・群馬大・食センター) ショウジョウバエのオスを殺すウイルス:原因遺伝子の発見	<b>E115</b> ○田中 雅也 <sup>1</sup> ・八瀬 順也 <sup>1</sup> ・神頭 武嗣 <sup>1</sup> ・内橋 嘉一 <sup>1</sup> ・富原 工弥 <sup>1</sup> ・刑部 正博 <sup>2</sup> (兵庫農技総セ・京大院農・生感情報) UV法(UVB照射+光反射シート)と天敵カブリダニの併用によるハダニ抑制効果	<b>F115</b> ○江川 大智 <sup>1</sup> ・鈴木 翔太 <sup>1</sup> ・西脇 寿 <sup>1</sup> (愛媛大学大学院農学研究科) 枯草菌の生産する殺虫成分
16:15	<b>A116</b> ○小笠原 宏実 <sup>1</sup> ・船田 剛玄 <sup>1</sup> (シンジェンタジャパン) テフルトリン0.5%粒剤(フォース <sup>®</sup> 粒剤)のキシジミハムシに対する作用性と本種多発生時の体系防除の有効性	<b>B116</b> ○中西 瑛太 <sup>1</sup> ・Richard CORNETTE <sup>2</sup> ・新井 智彦 <sup>1</sup> ・吉田 祐貴 <sup>3,4</sup> ・徳本 翔子 <sup>1</sup> ・宮田 佑吾 <sup>2</sup> ・Oleg GUSEV <sup>5,6</sup> ・黄川 田 隆洋 <sup>1,2</sup> (東大・院・新領域・先端生命・農研機構・生物研・慶大・院・政策・メディア・慶大・先端生命研・理研・カザン大) 強酸性湖に生息するサンユスリカ( <i>Chironomus acerbiphilus</i> Tokunaga)のゲノム解析	<b>C116</b> ○吉田 昂樹 <sup>1</sup> ・中村 傑 <sup>1</sup> ・高岩 和史 <sup>1</sup> (福島県農業総合センター果樹研究所) 自然受粉のみで栽培しているリンゴ園の訪花昆虫相から受粉コスト軽減の可能性を模索する	<b>D116</b> ○安佛 尚志 <sup>1,2,3</sup> ・西川 洋平 <sup>1,3</sup> ・小川 雅人 <sup>1,4</sup> ・井手 圭吾 <sup>1,4</sup> ・相川 拓也 <sup>5</sup> ・竹山 春子 <sup>1,3,4,6</sup> (産総研・早大OIL・産総研・生物プロセス・早大・ナノライフ創新研・早大・先進理工・森林総研・東北・早大・先進生命動態研) 微小液滴を用いたシングルセル技術による難培養性昆虫共生細菌の全ゲノム解析	<b>E116</b> ○大朝 真喜子 <sup>1</sup> ・森光 太郎 <sup>1</sup> ・中野 昭雄 <sup>2</sup> (石原産業中央研究所・徳島農総技センター) スワルバンカー <sup>®</sup> の改良～新製剤の基本特性と現地試験での評価～	<b>F116</b> ○佐藤 大樹 <sup>1</sup> (森林総合研究所) 子囊菌系昆虫病原菌の学名の現状について
16:30	<b>A117</b> ○山下 雄大 <sup>1</sup> ・青木 隆夫 <sup>1</sup> ・藤岡 伸祐 <sup>1</sup> (日本農業株式会社) ビリフルキナゾン(コルト <sup>®</sup> )に関する研究(第7報) —ネギハモグリバエに対する作用特性—	<b>B117</b> ○中野 文葉 <sup>1</sup> ・青木 不学 <sup>1</sup> ・鈴木 雅京 <sup>1</sup> (東大・院新領域・先端生命) <i>doublesex</i> 遺伝子の性的二型発現に着目したマイマイガの性決定時期の特定	<b>C117</b> 市川 葵 <sup>2</sup> ・池田 基紘 <sup>2</sup> ・後藤 慎介 <sup>1</sup> (大阪市立大学・大学院理科学研究科・大阪市立大学・理学部) 授粉昆虫ヒロズキンバエの低温保存と成虫のパフォーマンス	<b>D117</b> ○佐藤 嘉紀 <sup>1</sup> ・長峯 啓佑 <sup>2</sup> ・新谷 喜紀 <sup>3</sup> ・菅野 善明 <sup>3</sup> ・足達 太郎 <sup>4</sup> (東京農大・農研機構・生物研・南九州大・環境園芸・東京農大) ハスモンヨウから見つかった <i>Ilflaviridae</i> ウイルス様配列の系統解析および伝播性の解明	<b>E117</b> ○吉崎 涼花 <sup>1</sup> ・土井 誠 <sup>1</sup> ・斉藤 千温 <sup>1</sup> (静岡県農林技術研究所) 温室メロンにおける土着カブリダニの薬剤感受性と影響期間	<b>F117</b> 田中 俊佑 <sup>1</sup> ・新井 大 <sup>1</sup> ・Kitalong Christpher <sup>2</sup> ・Marshall Sean <sup>3</sup> ・井上 真紀 <sup>1</sup> ・仲井 まどか <sup>1</sup> (東京農工大学・Palau Community College・AgResearch) パラオ産タイワンカブトムシからPCRで検出されたヌディウイルスは顕性感染だった

2021年3月24日(水) 午後 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
16:45	<b>A118</b> ○高安 範 <sup>1</sup> ・加嶋 崇之 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 石原産業株式会社) ペミデ タッチ <sup>®</sup> の二番茶でのチャノミ ドリヒメヨコバイに対する適用 性評価			<b>D118</b> ○新谷 喜紀 <sup>1</sup> ・岡本 悠 吾 <sup>1</sup> ・今村 菖華 <sup>1</sup> ・菅野 善明 <sup>1</sup> ・ 寺尾 美里 <sup>2</sup> ・佐藤 嘉紀 <sup>3</sup> ・長 峯 啓佑 <sup>4</sup> ・陰山 大輔 <sup>4</sup> ( <sup>1</sup> 南九 州大・環境園芸・ <sup>2</sup> 南九州大・フィ ールドセンター・ <sup>3</sup> 東京農大院・ <sup>4</sup> 農研 機構・生物研) ハスモンヨトウ における性比異常現象の特 性と原因ウイルスの野外分 布	<b>E118</b> ○石川 俊夫 <sup>1</sup> ・山口 晃 一 <sup>1</sup> ・森 光太郎 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 石原産業 (株)中央研究所) バラのミヤコ バンカー <sup>®</sup> によるハダニ防除 効果の数理生物学的解析	<b>F118</b> ○中原 波留加 <sup>1</sup> ・西 大 海 <sup>2</sup> ・青木 智佐 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 九大院生資 源・ <sup>2</sup> 九大院農) 昆虫寄生菌製 剤由来の菌株のナミハダニ に対する病原力
17:00	<b>A119</b> ○藤原 亜希子 <sup>1,3</sup> ・田中 くるみ <sup>1,2</sup> ・小川 健司 <sup>4</sup> ・土田 努 <sup>5</sup> ( <sup>1</sup> 群馬大学・食センター・ <sup>2</sup> 群 馬大院・理工学府・ <sup>3</sup> 理研・CSRS・ <sup>4</sup> 日本大学・生物資源・ <sup>5</sup> 富山大学・ 学術研究部) タバココナジラミ 内部共生細菌に着目した、 TYLCV媒介防除資材の開発 に向けて			<b>D119</b> ○長峯 啓佑 <sup>1</sup> ・菅野 善 明 <sup>2</sup> ・佐藤 嘉紀 <sup>4</sup> ・寺尾 美里 <sup>3</sup> ・ 陰山 大輔 <sup>1</sup> ・新谷 喜紀 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 農 研機構・生物研・ <sup>2</sup> 南九州大・環境 園芸・ <sup>3</sup> 南九州大・フィールドセン ター・ <sup>4</sup> 東京農大院) ハスモンヨ トウの性比異常を引き起こす RNAウイルスの探索と系統 解析	<b>E119</b> ○神山 光子 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 熊本県 農業研究センター果樹研究所) ハウスミカンにおけるスワ ルバンカー <sup>®</sup> によるミカンハダニ 防除効果	



	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
9:00	<b>A201</b> ○飯田 博之 <sup>1</sup> ・佐々木 彩乃 <sup>2</sup> ・西野 実 <sup>2</sup> ・田中 千晴 <sup>2</sup> ・須藤 正彬 <sup>1</sup> ・山中 武彦 <sup>1</sup> ・山村 光司 <sup>1</sup> ・豊島 真吾 <sup>1</sup> (農研機構・三重県農業研究所) ネギアザミウマの薬剤抵抗性管理技術の開発…その1 野外圃場における薬剤散布方法と薬剤抵抗性遺伝子頻度の推移の関係	<b>B201</b> ○山本 美恵子 <sup>1</sup> ・横山 岳 <sup>2</sup> ・青木 不学 <sup>1</sup> ・鈴木 雅京 <sup>1</sup> (東大院・新領域・先端生命・東京農工大学・農学部) 雌雄モザイク体の性分化はどこまで細胞自律的か? scRNA-seqによる検証	<b>C201</b> ○見上 孝 <sup>1</sup> ・木村 澄 <sup>2</sup> ・荻原 麻理 <sup>2</sup> ・森本 信生 <sup>2</sup> ・芳山 三喜雄 <sup>2</sup> (生物めぐみ研究所・農研機構 畜産研) セイヨウミツバチから採取した精液の常温保存法の検討(2)	<b>D201</b> ○前岡 歩 <sup>1</sup> ・刑部 正博 <sup>1</sup> (京都大学・農学研究科) SDHBとSDHCの変異の併存によるcomplex II阻害剤高度抵抗性の発現	<b>E201</b> ○田中 彩友美 <sup>1</sup> ・村田 未果 <sup>2</sup> ・水谷 信夫 <sup>1</sup> ・飯田 博之 <sup>2</sup> (農研機構・九州研・農研機構・野花研) ツマジロクサヨトウの発育に対する4種寄主作物の適合性	<b>F201</b> ○竹内 博昭 <sup>1</sup> ・遠藤 信幸 <sup>1</sup> ・渋谷 和樹 <sup>1</sup> ・高橋 明彦 <sup>1</sup> (農研機構中央農研) 8月上旬の降水量からマメシクイガの羽化時期の遅延を推定できる
9:15	<b>A202</b> ○佐々木 彩乃 <sup>1</sup> ・西野 実 <sup>1</sup> ・田中 千晴 <sup>1</sup> ・飯田 博之 <sup>2</sup> ・豊島 真吾 <sup>2</sup> (三重県農業研究所・農研機構) ネギアザミウマの薬剤抵抗性管理技術の開発…その2 露地ネギ圃場での薬剤散布体系の違いによる被害抑制効果と薬剤感受性への影響	<b>B202</b> ○Meryem Behri <sup>1</sup> ・DeMar Taylor <sup>1</sup> (University of Tsukuba) Regulation of Titerogenin Receptor by Target of Rapamycin in <i>Ornithodoros moubata</i> (Acari: Argasidae)	<b>C202</b> ○荻原 麻理 <sup>1</sup> ・芳山 三喜雄 <sup>1</sup> ・森本 信生 <sup>1</sup> ・中村 純 <sup>2</sup> ・木村 澄 <sup>1</sup> (農研機構 畜産研究部門・玉川大学 農学部 先端食農学科) 日本国内のミツバチに寄生するミツバチヘギタダニの系統解析	<b>D202</b> ○山本 敦司 <sup>1,3</sup> ・土井 誠 <sup>2,3</sup> (日本曹達(株)・静岡農技研・農林害虫防除研-抵抗性対策TF) 殺虫剤抵抗性リスク評価表: そのリスク評価基準と作成事例	<b>E202</b> ○本田 善之 <sup>1</sup> ・溝部 信二 <sup>1</sup> (山口県農林総合技術センター) 山口県におけるイネカメムシの生態と防除	<b>F202</b> ○萱場 互起 <sup>1</sup> ・鮫島 良次 <sup>1</sup> (北海道大学・農学研究科) 害虫発生予測に入力する平年の気象データに関する研究
9:30	<b>A203</b> ○横山 泰之 <sup>1</sup> ・堀川 拓未 <sup>1</sup> ・土田 祥子 <sup>1</sup> ・宮嶋 一郎 <sup>1</sup> ・黒田 智久 <sup>1</sup> ・松澤 清二 <sup>2,1</sup> ・佐藤 秀明 <sup>3,1</sup> ・棚橋 恵 <sup>4,1</sup> (新潟県農研・園芸研・村上農林振興部・新潟県農研・佐渡農技・新潟経管) ネギ栽培におけるネギアザミウマ産雄雄為生殖型に対する各種殺虫剤の防除効果	<b>B203</b> ○池田 健人 <sup>1</sup> ・大門 高明 <sup>2</sup> ・塩見 邦博 <sup>3</sup> ・宇高 寛子 <sup>1</sup> ・沼田 英治 <sup>1</sup> (京都大学大学院理学研究科・京都大学大学院農学研究科・信州大学 繊維学部) カイコガの光周性に対するperiod遺伝子ノックアウトの効果	<b>C203</b> ○渡邊 智大 <sup>1</sup> ・佐々木 謙 <sup>1,2</sup> (玉川大・院・農・玉川大・農) ミツバチ雄における幼若ホルモンとチロシン摂取による脳内ドーパミン増加の仕組み	<b>D203</b> ○佃 晋太郎 <sup>1</sup> ・川田 千瑛 <sup>1</sup> (香川県農業試験場) 香川県内のイチゴ施設におけるナミハダニ ( <i>Tetranychus urticae</i> Koch) の薬剤感受性	<b>E203</b> ○矢代 敏久 <sup>1</sup> ・真田 幸代 <sup>1</sup> (農研機構・九州農研) マルチプレックスPCRによるイネウンカ類3種の簡易識別法	<b>F203</b> ○溝部 信二 <sup>1</sup> ・東浦 祥光 <sup>1</sup> (山口県農林総合技術センター) 山口県におけるスモモミハバチ <i>Monocelliscampa pruni</i> Wei の発生
9:45	<b>A204</b> ○向井 環 <sup>1</sup> ・黒田 貴仁 <sup>1</sup> ・青木 由美 <sup>1</sup> (富山農総技) 露地ネギ栽培におけるネギハモグリバエの粒剤を用いた体系防除の検討	<b>B204</b> ○佐藤 瑞華 <sup>1</sup> ・池田 健人 <sup>2</sup> ・大門 高明 <sup>3</sup> ・塩見 邦博 <sup>4</sup> ・沼田 英治 <sup>2</sup> ・志賀 向子 <sup>1</sup> (大阪大学・理学研究科・京都大学・理学研究科・信州大学 繊維学部) カイコガ幼虫期における光周性とperiod発現細胞	<b>C204</b> ○久保 良平 <sup>1</sup> ・小野 正人 <sup>1,2</sup> (玉川大・院・ミツバチ科学・玉川大・院・昆虫機能) カリガネソウ(シソ科)の花香に含まれるトラマルハナバチの誘引物質解析	<b>D204</b> ○山村 光司 <sup>1</sup> (農研機構・農環研セ) 薬剤抵抗性の進化を阻止するための最適な薬剤散布計画	<b>E204</b> ○中島 具子 <sup>1</sup> ・齋藤 睦美 <sup>1</sup> (山形県農業総合研究センター) サイレージ用トウモロコシにおけるアカスジカスミカメの発生状況	<b>F204</b> ○奥谷 恭代 <sup>1</sup> ・藤原 更紗 <sup>1</sup> (鳥取県農業試験場) ヒメトビウンカが媒介するイネ縞葉枯病が水稲品種「きぬむすめ」の収量、玄米品質および食味に及ぼす影響
10:00	<b>A205</b> ○土井 誠 <sup>1</sup> ・松野 和夫 <sup>2</sup> ・片山 晴喜 <sup>1</sup> (静岡県農林技術研究所・静岡県西部農林事務所) 水耕栽培の葉ネギの培地に発生するホシチョウバエに対する温湯処理の防除効果	<b>B205</b> ○本廣 千佳 <sup>1</sup> ・藤原 一平 <sup>1</sup> ・志賀 向子 <sup>1</sup> (大阪大・院・理学研究科) ルリキンバエの脳における光周性機構に関連する遺伝子の探索	<b>C205</b> ○沓掛 磨也子 <sup>1</sup> ・柴尾 晴信 <sup>2</sup> ・深津 武馬 <sup>1</sup> (産総研・生物プロセス・筑波大・生命環境系) 人工飼料飼育系を用いた社会性アブラムシの兵隊分化に関わる分子機構の解明	<b>D205</b> ○伊藤 悠佑 <sup>1</sup> ・下間(井尻) 悠士 <sup>1,2</sup> ・上樂 明也 <sup>3</sup> ・Van Leeuwen Thomas <sup>4</sup> ・刑部 正博 <sup>1</sup> (京大院農・道総研・農研機構・生物研・ゲント大学) ナミハダニにおけるピリダベン高度抵抗性を発現するPSSTとCYP392A3との相互作用	<b>E205</b> ○田中 千晴 <sup>1</sup> ・佐々木 彩乃 <sup>1</sup> ・笹山 哲夫 <sup>2</sup> ・小谷 弘哉 <sup>3</sup> ・近藤 和夫 <sup>3</sup> ・西野 実 <sup>1</sup> (三重県農研・三重中農普セ・九鬼産業) ミナミアオカメムシに対する薬剤散布の時期がゴマの成分品質に及ぼす影響	<b>F205</b> ○亀井 幹夫 <sup>1</sup> (広島総研農技セ) 深層学習を用いたトマト葉上のコナジラミ類成虫の識別
10:15	<b>A206</b> ○大江 高穂 <sup>1</sup> ・関根 崇行 <sup>1</sup> ・駒形 泰之 <sup>1</sup> ・小野寺 隆一 <sup>2</sup> ・阿部 翔太 <sup>2</sup> ・高梨 琢磨 <sup>3</sup> (宮城農園研・東北特殊鋼・森林総研) 振動の振幅はトマトのオンシツコナジラミ寄生密度抑制と収量増加に寄与する	<b>B206</b> ○澤 友美 <sup>1</sup> ・上坂 一馬 <sup>2</sup> ・千葉 壮太郎 <sup>2</sup> ・奥村 雄輝 <sup>3</sup> ・中松 豊 <sup>1</sup> ・田中 利治 <sup>2</sup> (皇学館大・教育・名大院・生命農・鳥羽市立加茂小) <i>C. kariyai</i> (Ck) と <i>C. ruficrus</i> (Cr) のポリナウイルスに感染した寄主血球のRNAseq解析	<b>C206</b> ○松浦 健二 <sup>1</sup> (京都大学大学院農学研究科) ヤマトシロアリの単為生殖の発見から20年、拓かれた社会生物学の領域	<b>D206</b> ○藤井 智久 <sup>1</sup> ・真田 幸代 <sup>1</sup> (農研機構九州沖縄農研) トビイロウンカのジノテフラン選抜系統におけるネオニコチノイド系殺虫剤に対する感受性変化	<b>E206</b> ○河村 太 <sup>1</sup> ・原口 大 <sup>1</sup> ・松山 隆志 <sup>2</sup> ・日室 千尋 <sup>3,4</sup> ・本間 淳 <sup>3,4</sup> ・池川 雄亮 <sup>3,4</sup> ・佐渡山 安常 <sup>1</sup> ・金城 邦夫 <sup>1</sup> (沖縄県病害虫防除技術センター・沖縄県農業研究センター・琉球産経(株)・琉球大学農学部) 津堅島におけるアリモドキゾウムシの根絶防除-島外からの飛来ノイズ下での根絶-	<b>F206</b> ○下村 文那 <sup>1</sup> ・武藤 美樹 <sup>1</sup> ・高山 智光 <sup>2</sup> ・杉浦 綾 <sup>2</sup> ・中石 一英 <sup>1</sup> (高知県農業技術センター・農研機構農業情報研究センター) 学習済みCNNモデルのファインチューニングでアザミウマを分類できるか
10:30	<b>A207</b> ○富原 文弥 <sup>1</sup> ・田中 雅也 <sup>1</sup> ・小野寺 隆一 <sup>2</sup> ・阿部 翔太 <sup>2</sup> ・高梨 琢磨 <sup>3</sup> (兵庫農技総セ・東北特殊鋼・森林総研) トマトにおける振動刺激を利用したコナジラミ類防除の試み	<b>B207</b> ○Achmad Gazali <sup>1</sup> ・Ardhiani Kurnia Hidayanti Hidayanti <sup>1</sup> ・Yohsuke TAGAMI <sup>2</sup> (Gifu University・Shizuoka University) Autophagy Inducers and Inhibitors Reveal the Relationship among Autophagy, <i>Wolbachia</i> and Rice Stripe Virus within <i>Laodelphax striatellus</i> (Hemiptera: Delphacidae)	<b>C207</b> ○中野 由布妃 <sup>1</sup> ・竹松 葉子 <sup>2</sup> (鳥取大学大学院連合農学研究科・山口大学大学院創成科学研究科) 山口県に生息する2種のヤマトシロアリ属の同胞認識行動に対して遺伝的要因が及ぼす影響	<b>D207</b> ○真田 幸代 <sup>1</sup> ・藤井 智久 <sup>1</sup> ・秋月 岳 <sup>1</sup> (農研機構九州沖縄農業研究センター) ツマジロクサヨトウのアジアにおける薬剤防除対策と国内採集個体の薬剤感受性	<b>E207</b> ○本間 淳 <sup>1,2,3</sup> ・安藤 さやか <sup>2</sup> (琉球産経・沖縄県防技セ・琉球大学・農学部) 沖縄県に侵入したミカンコマバエ種群の形態的・遺伝的特徴と発生パターン	<b>F207</b> ○金子 政夫 <sup>1</sup> (長野県野菜花き試験場) 黄色粘着トラップに捕獲されたネギアザミウマ雌雄成虫の簡易識別法と予察利用の検討

2021年3月25日(木) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
10:45	<b>A208</b> ○黒田 貴仁 <sup>1</sup> ・向井 環 <sup>1</sup> ・青木 由美 <sup>1</sup> (富山農総技セ) クモヘリカメムシ成虫に対する各種薬剤の殺虫効果	<b>B208</b> ○後藤 哲雄 <sup>1</sup> ・Mohamed W. Negm <sup>2</sup> ・松田 朋子 <sup>3</sup> (流通経済大学・ <sup>2</sup> 茨城大学・ <sup>3</sup> 日本バイオデータ) <i>Panonychus</i> 属ハダニの分類の現状と問題点	<b>C208</b> ○渡辺 裕文 <sup>1</sup> ・徳田 岳 <sup>2</sup> (農研機構 生物機能利用研究部門・ <sup>2</sup> 琉球大学 熱帯生物圏研究センター) ヤマトシロアリゲノムの酸化還元酵素様配列から得たリコンビナントタンパクの特性		<b>E208</b> ○木村 悟朗 <sup>1</sup> (イカリ消毒株式会社) 風速がハエ・コバエ類の移動に及ぼす影響	<b>F208</b> ○小俣 良介 <sup>1</sup> (埼玉県茶業研究所) 埼玉県におけるチャドクガ <i>Euproctis pseudoconsersa</i> の多発生と60年間の発生推移
11:00	<b>A209</b> ○安藤 さやか <sup>1</sup> ・本間 淳 <sup>2,3</sup> (沖縄県病害虫防除技術センター・ <sup>2</sup> 琉球産経(株)・ <sup>3</sup> 琉球大学・農学部) ウリミバエ不妊虫放飼数適正化への取組	<b>B209</b> ○浦入 千宗 <sup>1</sup> ・藤戸 聡史 <sup>1</sup> ・豊島 真吾 <sup>1</sup> (農研機構野花研) ネギハモグリバエ従来系統と新系統の系統間交雑の調査	<b>C209</b> ○小山 雄太郎 <sup>1</sup> ・矢口 甫 <sup>1</sup> ・北條 賢 <sup>1</sup> (関西学院大学・理工学部) ネバダオアシロアリのワーカーにおける防衛行動の柔軟な変化			<b>F209</b> ○渋谷 和樹 <sup>1</sup> ・渡邊 照之 <sup>2</sup> ・小出 良平 <sup>2</sup> ・遠藤 信幸 <sup>1</sup> ・竹内 博昭 <sup>1</sup> (農研機構中央農研・ <sup>2</sup> 石川農研) コントラップの紫外線透過率や形状がウコンノメイガの捕獲数に与える影響
11:15	<b>A210</b> ○原口 大 <sup>1</sup> ・谷口 昌弘 <sup>1</sup> ・安藤 さやか <sup>1</sup> ・本間 淳 <sup>2,3</sup> ・日室 千尋 <sup>2,3</sup> ・池川 雄亮 <sup>2,3</sup> ・松山 隆志 <sup>4</sup> ・佐渡山 安常 <sup>1</sup> (沖縄防技セ・ <sup>2</sup> 琉球産経(株)・ <sup>3</sup> 琉球大農・ <sup>4</sup> 沖縄農研セ) 近年の沖縄県におけるミカンコミバエ種群の侵入状況と対策	<b>B210</b> ○香川 清彦 <sup>1</sup> (宇都宮大学農学部) 日本におけるカナビキソウに寄生するアブラムシに関する知見の続報 その2	<b>C210</b> ○川本 晴俊 <sup>1</sup> ・秋野 順治 <sup>1</sup> (京工繊大院・応生) クロヤマアリの新羽化成虫による同巢認識能の獲得時期			<b>F210</b> ○岩田 大介 <sup>1</sup> ・高橋 和太 <sup>1</sup> (新潟農総研作物研) ウコンノメイガの発生消長とその年次変動
11:30	<b>A211</b> ○秋田 愛子 <sup>1</sup> ・亀山 健太 <sup>1</sup> ・寺村 皓平 <sup>1</sup> ・小山 裕美子 <sup>2</sup> ・喜久村 智子 <sup>3</sup> ・上里 卓己 <sup>1</sup> (沖縄農研セ・ <sup>2</sup> 沖縄中部普及セ・ <sup>3</sup> 沖縄卸売市場) 沖縄県でのトルコギキョウ栽培におけるチャノキイロアザミウマの発生実態および粒剤・散布剤の殺虫効果					<b>F211</b> ○渡邊 照之 <sup>1</sup> ・小出 良平 <sup>1</sup> ・松田 絵里子 <sup>1</sup> ・川上 郷子 <sup>1</sup> ・安達 直人 <sup>1</sup> (石川県農林総合研究センタ農業試験場) マルチスペクトルカメラ搭載のドローンを利用したタマナギンウワバの発生分布予測の検討

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
9:00	<b>A301</b> ○谷山 克也 <sup>1</sup> ・堀 雅敏 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 東北大学院・農) ヒトスジシマカに対する青色光の殺虫効果	<b>B301</b> ○大庭 伸也 <sup>1</sup> ・松本 弥優 <sup>1</sup> ・大浦 ひなた <sup>1</sup> ・吉村 愛菜 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 長崎大学・教育学部) コオイムシの卵サイズと生活史に関する個体群間比較	<b>C301</b> ○星崎 杉彦 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 東大 農) 体の小さな幼虫は、大きな頭を備えているか?	<b>D301</b> ○中村 晃紳 <sup>1</sup> ・鎌田 美波 <sup>2</sup> ・糸山 享 <sup>1,2</sup> ( <sup>1</sup> 明治大学農学研究科・ <sup>2</sup> 明治大学農学部) Comparison of some characteristics related to the conservation of <i>Orius</i> spp. between the two varieties of okra	<b>E301</b> ○上地 奈美 <sup>1</sup> ・三代 浩二 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 農研機構 果樹茶業研究部門) バラ科果樹4樹種におけるクビアカツヤカミキリ雌成虫の切り枝への滞在時間、および、切り枝上で産卵場所探索行動を示した時間の比較	
9:15	<b>A302</b> ○小林 敦樹 <sup>1</sup> ・堀 雅敏 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 東北大学院・農) 体表の光透過性がショウジョウバエの青色光耐性に与える影響	<b>B302</b> ○辰巳 嘉人 <sup>1</sup> ・三田 敏治 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 九州大院・生資環・ <sup>2</sup> 九州大院・農学研究科) クロハラカマバチ単為生殖系統の分布および単為生殖化と共生細菌の関係性	<b>C302</b> ○今野 浩太郎 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 農研機構 生物機能利用研究部門) モンシロチョウがキャベツに独占的に大被害を与える理由—高い比成長率による被害量増大・害虫化・競争排除	<b>D302</b> ○YUDISTIRA DWI <sup>1</sup> ・佐藤 智 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 山形大学農学部) WINTER ABUNDANCE OF FRESHWATER SNAILS AND AQUATIC ORGANISMS IN IRRIGATION CANALS	<b>E302</b> ○深谷 緑 <sup>1,2</sup> ・木元 瑛那 <sup>1</sup> ・山中 康如 <sup>1</sup> ・桐山 哲 <sup>1,3</sup> ・岩田 隆太郎 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 日本大学・生物資源科学部・ <sup>2</sup> 順天堂大学・ <sup>3</sup> 富山県木材研究所) 特定外来生物クビアカツヤカミキリの産卵における寄主表面構造の選好性	
9:30	<b>A303</b> ○遠藤 信幸 <sup>1</sup> ・本田 善之 <sup>2</sup> ・岩本 哲弥 <sup>2</sup> ・弘中 満太郎 <sup>3</sup> ( <sup>1</sup> 農研機構中央農研・ <sup>2</sup> 山口農林総セ・ <sup>3</sup> 石川県立大) 紫外光と緑色光の混色光源の各種昆虫に対する誘引性	<b>B303</b> ○楠原 弘己 <sup>1</sup> ・上野 高敏 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 九州大学 資源生物環境科学府 天敵昆虫学研究室) 九州地方の4県6地域におけるツマグロヨコバイ天敵卵寄生蜂ギルドの解明	<b>C303</b> ○矢野 修一 <sup>1</sup> ・小西 麻結 <sup>2</sup> ・秋野 順治 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 京大院農・生態情報・ <sup>2</sup> 京工繊大院・応生) ハダニがアリの足跡を避けることの意味	<b>D303</b> ○ムンタリ チャンディオナ <sup>1</sup> ・森本 春暢 <sup>1</sup> ・大西 一光 <sup>1</sup> ・小池 正徳 <sup>1</sup> ・バルタ ジワン <sup>2</sup> ・木下 林太郎 <sup>1</sup> ・相内 大吾 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 帯広畜産大学・ <sup>2</sup> ウイスコンシン大学マディソン校) Establishment of model plant nutrition control system and effects of plant nutrition on <i>Aphis gossypii</i> (Glover) host preference	<b>E303</b> ○浦野 忠久 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所 関西支所) クビアカツヤカミキリ孵化幼虫飼育法の改良	
9:45	<b>A304</b> ○中村 傑 <sup>1</sup> ・吉田 昂樹 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 福島県農業総合センター果樹研究所) ブドウハウス栽培における赤色防虫ネットのチャノキイロアザミウマに対する侵入抑制効果	<b>B304</b> ○寺尾 美里 <sup>1,2</sup> ・徳田 誠 <sup>3,2</sup> ・新谷 喜紀 <sup>4</sup> ( <sup>1</sup> 南九州大・フィールドセンター・ <sup>2</sup> 産大院・連合農学・ <sup>3</sup> 佐賀大・農・ <sup>4</sup> 南九州大・環境園芸) マメハシムシにおける早熟変態が生み出す小さな成虫の繁殖可能性	<b>C304</b> ○谷口 昌弘 <sup>1</sup> ・佐渡山 安常 <sup>1</sup> ・原口 大 <sup>1</sup> ・松山 隆志 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 沖縄県病害虫防除技術センター・ <sup>2</sup> 沖縄県農業研究センター) 沖縄県におけるナスミバエ <i>Bactrocera latifrons</i> の寄主植物の種類とその利用状況から推測される分布拡大パターン	<b>D304</b> ○黒木 祥友 <sup>1</sup> ・井村 英輔 <sup>2</sup> ・Nouzova Marcela <sup>3</sup> ・松山 茂 <sup>1</sup> ・溝口 明 <sup>4</sup> ・近藤 周 <sup>5</sup> ・谷本 拓 <sup>6</sup> ・Noriega Fernando <sup>3</sup> ・丹羽 隆介 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 筑波大学生命環境科学研究科・ <sup>2</sup> 筑波大学生存ダイナミクス研究センター・ <sup>3</sup> フロリダ国際大学・ <sup>4</sup> 愛知学院大学教養部・ <sup>5</sup> 国立遺伝学研究所・ <sup>6</sup> 東北大学生命科学研究科) Neuronal control of reproductive dormancy in the fruit fly <i>Drosophila melanogaster</i>	<b>E304</b> ○加賀谷 悦子 <sup>1</sup> ・田村 繁明 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 森林総合研究所) Nested-PCR法を用いたクビアカツヤカミキリの検出手法	
10:00	<b>A305</b> ○岩本 哲弥 <sup>1</sup> ・溝部 信二 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 山口県農林総合技術センター) 蒸熱処理によるクリ果実害虫の防除の検討	<b>B305</b> ○檜垣 守男 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 農研機構・果樹茶部門) ゴマダラカミキリにみられる複数の生活史型とその割合の地理的変異	<b>C305</b> 川井 咲 <sup>1</sup> ・多々良 明夫 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 法政大生命・ <sup>2</sup> 静岡農林環境専門職大) ミカンキイロアザミウマとネギアザミウマの体色に与える温度の影響	<b>D305</b> ○阿部 真生子 <sup>1</sup> ・丹羽 隆介 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 筑波大学大学院 理工情報生命学術院 生命地球科学研究群・ <sup>2</sup> 筑波大学生存ダイナミクス研究センター) The noni fruit <i>Morinda citrifolia</i> has a beneficial effect on glucose tolerance in the fruit fly <i>Drosophila sechellia</i>		
10:15	<b>A306</b> ○松山 尚生 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 和歌山果試) ミカンハダニに対する気門封鎖型薬剤の殺成虫・殺卵効果	<b>B306</b> ○大林 隆司 <sup>1</sup> ・野口 貴 <sup>2</sup> ・小林 和郎 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 東京都農林総合研究センター 生産環境科・ <sup>2</sup> 東京都島しょ農林水産総合センター 八丈事業所) クロスジイラガの加害植物と発生消長および天敵類	<b>C306</b> 李 楊 <sup>1</sup> ・秋元 信一 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 北大院農昆虫体系) 同じ植物に共存する2種のアブラムシ間の増殖競争と競争からの撤退	<b>D306</b> ○Ardhiani Kurnia Hidayanti <sup>1</sup> ・Achmad Gazali <sup>1</sup> ・Yohsuke Tagami <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> UGSAS Gifu University・ <sup>2</sup> Shizuoka University) Quorum Sensing Related Chemicals Affect Cytoplasmic Incompatibility (CI) by <i>Wolbachia</i> in <i>Liriomyza trifolii</i> (Diptera: Agromyzidae)		

## 2021年3月26日(金) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
11:00	<b>A307</b> 兼田 武典 <sup>1</sup> (徳島県立農林水産総合技術支援センター) マシン油乳剤によるビワキジラミ ( <i>Cacopsylla biwa</i> ) の産卵抑制効果と被害抑制	<b>B307</b> 田淵 研 <sup>1</sup> ・吉村 英翔 <sup>1</sup> ・上杉 龍士 <sup>1</sup> ・大江 高穂 <sup>2</sup> ・高橋 明彦 <sup>3</sup> ・舩谷 悠祐 <sup>1,4</sup> ・長谷川 利拡 <sup>1</sup> (農研機構東北農研 <sup>2</sup> ・宮城農園研 <sup>3</sup> ・農研機構中央農研北陸 <sup>4</sup> ・岩手大院・連合農学) クモヘリカメムシの北進と気象データから見た越冬可能地域の変遷	<b>C307</b> 村瀬 香 <sup>1</sup> (名古屋大学大学院・理学研究科) 野生動物の疾病に関する病態病理学的研究	<b>D307</b> Phyu Phyu San <sup>1</sup> ・Midori Tuda <sup>1</sup> (Kyushu University) Effects of <i>Wolbachia</i> infection on life history traits in azuki bean beetle <i>Callosobruchus chinensis</i> and its parasitoids under climate change		
11:15	<b>A308</b> 内田 太陽 <sup>1</sup> ・村瀬 香 <sup>1</sup> (名古屋大学大学院・理学研究科) アルゼンチンアリの再分布拡大の過程とその防除方法の提言	<b>B308</b> 武藤 美樹 <sup>1</sup> ・下村 文那 <sup>1</sup> ・中石 一英 <sup>1</sup> (高知県農業技術センター) シキミに寄生するフシダニ類の発生消長と薬剤感受性	<b>C308</b> 寒河江 康太 <sup>1</sup> ・佐藤 智 <sup>1</sup> (山形大学農学部) 水田のミドリ類に生息する節足動物の発生消長	<b>D308</b> 新井 大 <sup>1</sup> ・安佛 尚志 <sup>2,3,4</sup> ・西川 洋平 <sup>2,4</sup> ・小川 雅人 <sup>2,5</sup> ・細川 正人 <sup>4</sup> ・竹山 春子 <sup>4,5,2</sup> ・Lin Shiou-Ruei <sup>6</sup> ・上田 雅俊 <sup>1</sup> ・仲井 まどか <sup>1</sup> ・国見 裕久 <sup>1</sup> ・井上 真紀 <sup>1</sup> (農工大院・農 <sup>2</sup> ・産総研・早大OIL <sup>3</sup> ・産総研・生物プロセス <sup>4</sup> ・早大・ナノライフ創研 <sup>5</sup> ・早大・先進理工 <sup>6</sup> ・台湾茶業改良所) License to kill males: a male-killing associated prophage WO was identified from comparisons of closely related <i>Wolbachia</i> strains in <i>Homona magnanima</i>		
11:30			<b>C309</b> 津田 みどり <sup>1</sup> ・岩瀬 俊一郎 <sup>2</sup> ・Haran Julien <sup>3</sup> ・Kebe Khadim <sup>4</sup> ・Skuhrovec Jiri <sup>5</sup> ・Sanaei Ehsan <sup>6</sup> ・辻 尚道 <sup>7</sup> (九州大学農学研究院 <sup>2</sup> ・大阪府立環境農水総研 <sup>3</sup> ・INRA <sup>4</sup> ・Polytech Higher Sch Dakar <sup>5</sup> ・Crop Research Inst, Czech <sup>6</sup> ・University of Queensland <sup>7</sup> ・九州大学生物資源環境) マメ科害虫の原産地における共生菌感染と遺伝的分化・交雑: 細胞質不和合性による防除の可能性	<b>D309</b> Eko Andrianto <sup>1</sup> ・Shunya Kuranouchi <sup>2</sup> ・Jessica Adelaide Kapojos <sup>2</sup> ・Atsushi Kasai <sup>2</sup> (UGSAS, Gifu University <sup>1</sup> ・Shizuoka University <sup>2</sup> ) <i>Wolbachia</i> in <i>Camellia</i> Spiny Whitefly, <i>Aleurocanthus camelliae</i> and its two parasitoid wasps (Hymenoptera: Aphelinidae)		
				<b>D310</b> 小西 堯生 <sup>1</sup> ・田崎 英祐 <sup>1</sup> ・松浦 健二 <sup>1</sup> (京大院・農・昆虫生態) The end of colony: termite workers steal nitrogen source under king-absent condition		